

◆専門小委員会の経緯

年 月 日	都市計画審議会	コンパクトなまちづくり専門小委員会
平成27年 5月21日	<ul style="list-style-type: none"> ■第62回 ・専門小委員会設置 	
平成27年 7月31日		<ul style="list-style-type: none"> □第1回 ・北九州市の都市の現状等 ・都市構造上の課題とまちづくりの方向性（案）
平成27年11月 9日		<ul style="list-style-type: none"> □第2回 ・都市構造上の課題とまちづくりの方向性 ・居住誘導区域・都市機能誘導区域の設定 ・市民意識調査の結果 ・立地適正化計画構成（案）
平成28年 1月 7日		<ul style="list-style-type: none"> □第3回 ・将来都市構造 ・都市機能誘導区域の設定、誘導施策、指標等 ・居住誘導区域の設定、誘導施策、指標等
平成28年 2月 3日	<ul style="list-style-type: none"> ■第64回 ・策定状況の中間報告 	
平成28年 3月14日		<ul style="list-style-type: none"> □第4回 ・立地適正化計画（素案）
平成28年 6月29日		<ul style="list-style-type: none"> □第5回 ・立地適正化計画（素案）に対する意見募集の結果と対応の考え方 ・都市計画審議会に報告する最終案
平成28年 8月17日	<ul style="list-style-type: none"> ■第66回 ・計画（案）の報告 	

◆「立地適正化計画」策定庁内関係課長連絡会議

計画の検討を効果的に進めるために、市の行政の各部門の総務・企画担当課長による連絡会議を設置し、検討・協議・調整などを行いました。

「立地適正化計画」策定庁内関係課長連絡会議の構成

○メンバー

局・室・委員会	課
危機管理室	危機管理課
技術監理局	技術企画課
総務局	総務課
企画調整局	企画課
財政局	財政課
市民文化スポーツ局	総務区政課
保健福祉局	総務課
子ども家庭局	総務企画課
環境局	総務課
産業経済局	総務課
建設局	総務課
建築都市局	総務課
港湾空港局	総務課
上下水道局	総務課
交通局	総務経営課
教育委員会	企画調整課

○オブザーバー

局・室・委員会	課
各区役所	総務企画課

○事務局

局・室・委員会	課
建築都市局	都市計画課

(3) 市民参加の取組

北九州市立地適正化計画は、市民意見の反映につとめながら策定しました。

◆市民意識調査の実施

まちづくりの現状や今後の方向性などについて広く市民の意見を把握するために、アンケートを実施しました。

- 調査時期 平成27年 6月22日から 7月17日
- 調査対象者 住民基本台帳から無作為抽出した20歳以上の男女3,000人
- 調査方法 アンケート用紙の郵送配布、郵送受付を行いました。
- 回答数 1,365人から回答が寄せられました。(回収率46%)
- 結果の概要 (P48～50参照)
 - ・コンパクトなまちづくりを進めることは必要と考えている人が多い(約9割)
 - ・一定の人口集積を保っていく区域を設定することは必要と考えている人が多い(約8割)
 - ・住みたい場所として「街なか」を望む人が多い。

◆北九州市立地適正化計画(素案)に対する意見募集

北九州市立地適正化計画(素案)を公表するとともに、市民意見の一層の反映を図るために意見募集を行いました。

- 募集期間 平成28年4月18日から5月17日
- 公表方法 市政だよりにより意見募集のお知らせを掲載。市役所、区役所、出張所、市民センターで概要版を配布し、詳細(全文)が閲覧できるようにしました。また、市のホームページにも概要と詳細(全文)を掲載しました。
- 募集方法 ファクシミリや郵送、電子メールなどによる受付を行いました。
- 応募数・意見数 21人から、70件の意見が寄せられました。
- 意見の概要
 - ・計画策定にあたっての基本的な考え方、都市機能並びに居住の誘導に関して、賛意を示す意見が多い。
 - ・居住誘導区域の設定に関して、より広い区域設定を望む意見がみられた。
 - ・居住誘導区域外の対応に関して、行政サービス等の継続を望む意見が比較的多い。

◆その他の取組

北九州市立地適正化計画(たたき台)や(素案)について、市民説明会、民間関係団体等への説明会を実施しました。

- 期間 平成27年12月22日～平成28年5月20日
- 参加者 のべ537人
- 意見の概要
 - ・コンパクトなまちづくりを進めることについて、賛意を述べる意見が多い。
 - ・都市機能や居住の誘導について、インセンティブの必要性を述べる意見が多い。
 - ・居住誘導区域外について、行政サービス等の継続を望む意見も多く見られた。

(4) 策定時の体制

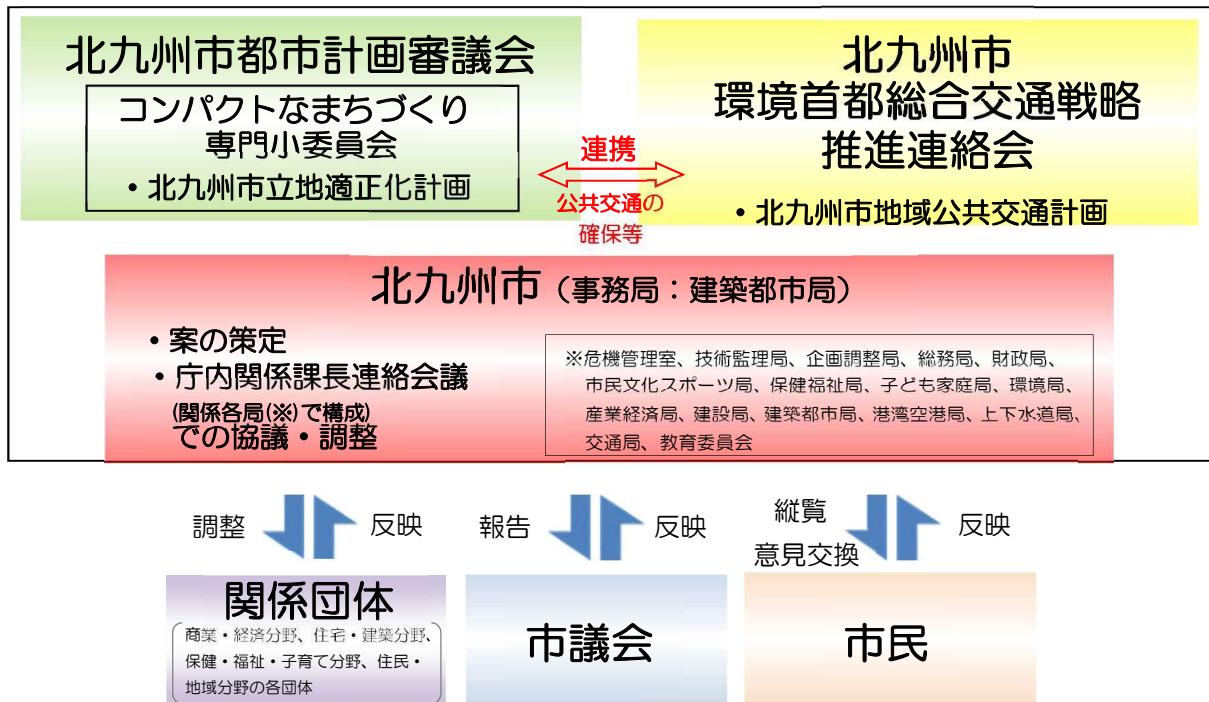


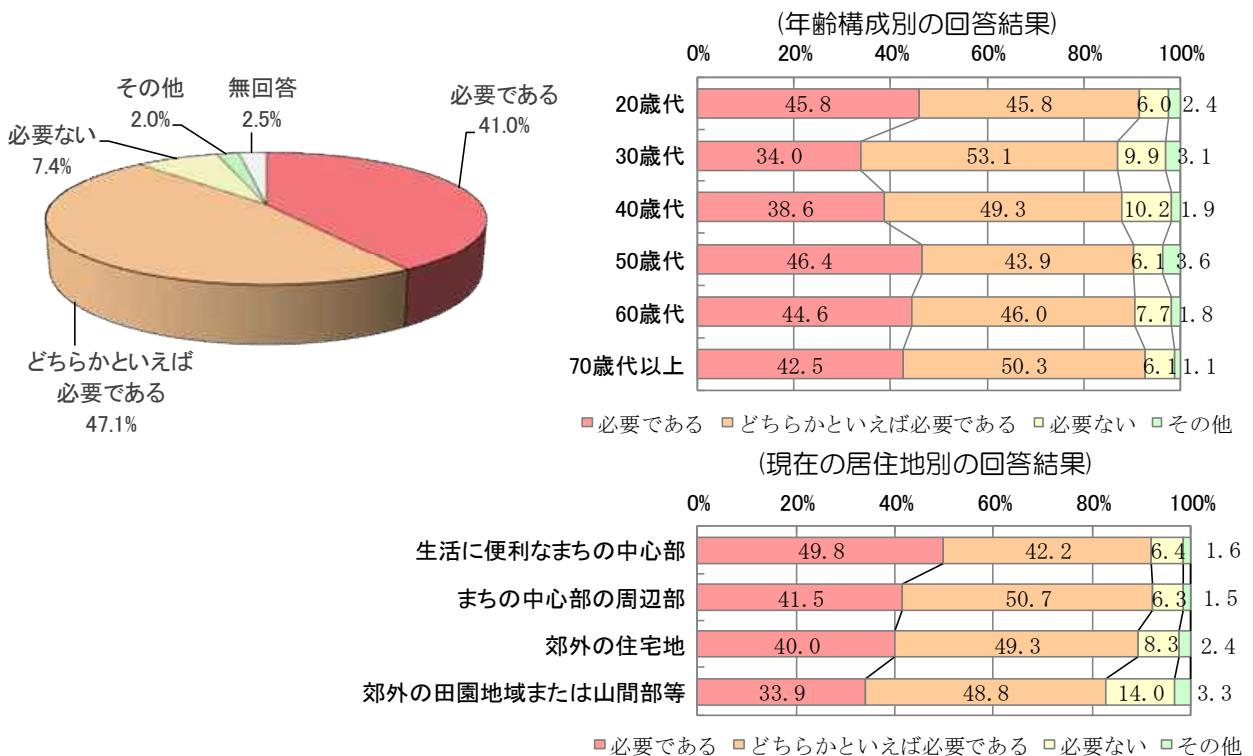
図 策定体制

●コンパクトなまちづくりに関する市民の意識（平成27年6～7月）

「人口減少・超高齢化社会を見据えたコンパクトなまちづくり」をテーマとして、平成27年6～7月に、20歳以上の北九州市民3,000人を対象に実施した市民意識調査において、各問いに対し、次のような結果が得られました。（郵送調査、有効回収数1,365票、有効回収率45.5%）

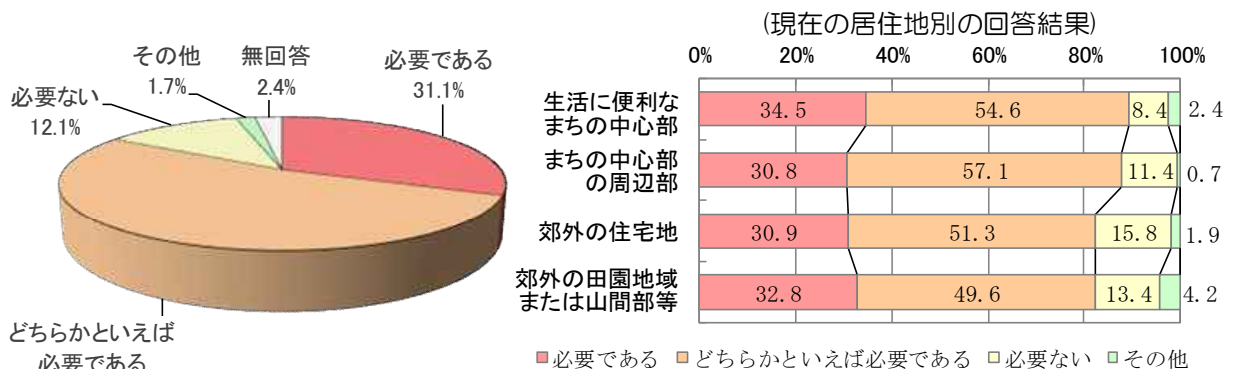
問1「コンパクトなまちづくり」を進めることについて、あなたはどのように思いますか？

- 「必要である」または「どちらかといえば必要である」（以下『必要である』等）と回答した方は88.1%となっています。
- 年齢別に見ると、30歳代以上では年齢層が高いほど「必要である」等の割合が高くなっています。
- 居住地別に見ると、現在の居住地がまちの中心部やその周辺部から、郊外部へ向かうほど「必要ない」と回答した人の割合が高くなっています。



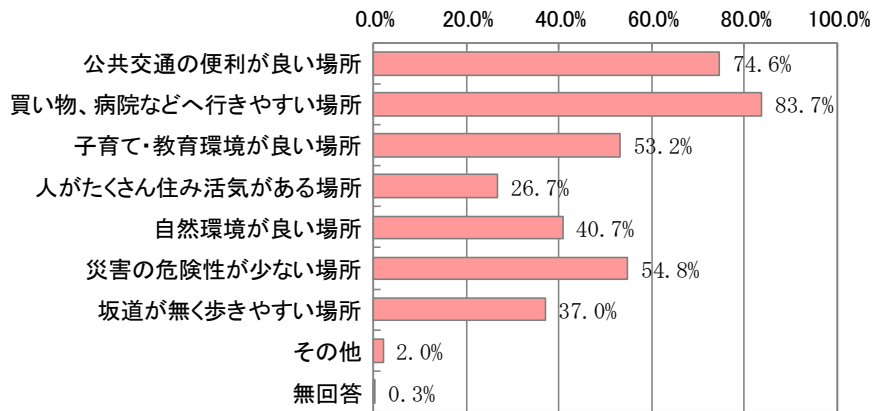
問2「一定の人口の集積を保っていく区域」を設定することについて、あなたはどのように思いますか？

- 「一定の人口の集積を保っていく区域」を設定することについては、83.8%の人が「必要である」等と回答しています。
- 居住地別に見ると、現在の居住地に関わらず8割以上が「必要である」等と回答しています。



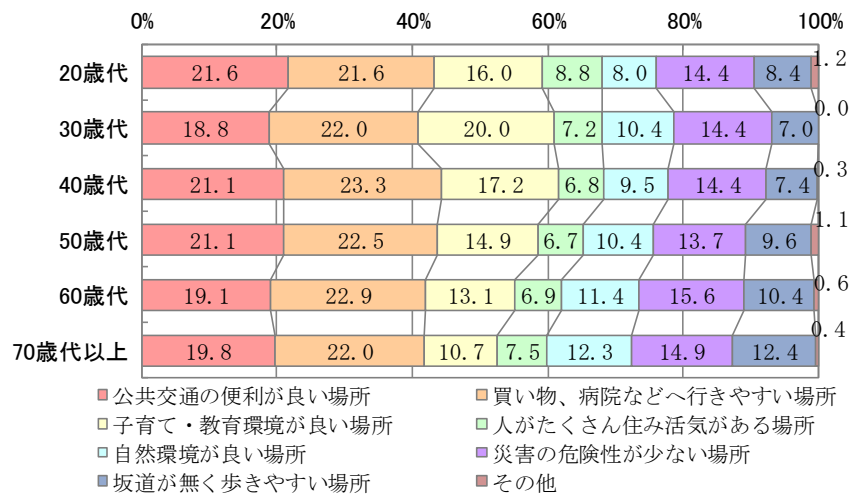
問3 「一定の人口の集積を保っていく区域」は、どのような場所を設定したら良いと考えますか？

○「買い物、病院などへ行きやすい場所」(83.7%)、「公共交通の便利が良い場所」(74.6%)が多く、次いで「災害の危険性が少ない場所」(54.8%)、「子育て・教育環境が良い場所」(53.2%)となっています。



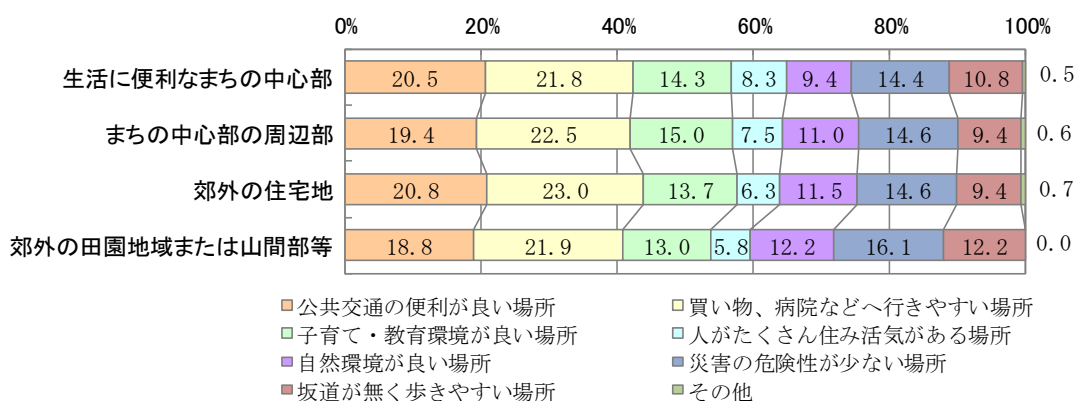
○年齢別に見ると、「坂道が無く歩きやすい場所」を挙げた方の割合は、年齢層が高いほど、高くなる傾向にあります。
 ○「子育て・教育環境が良い場所」を挙げた方の割合は、子育て世代の30歳代、40歳代で多くなっています。

(年齢構成別の回答結果)



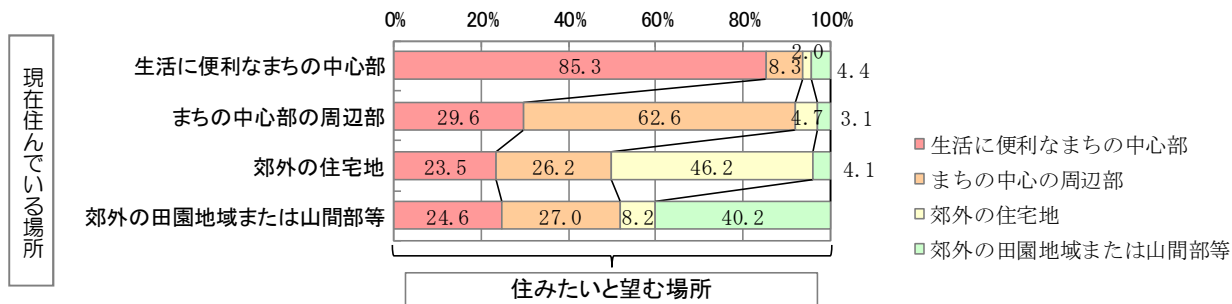
○居住地別に見ると、「人がたくさん住み活気がある場所」を挙げている割合は、まちの中心部に住んでいる方ほど高く、「自然環境が良い場所」は郊外に住んでいる方ほど高くなっています。

(現在の居住地別の回答結果)

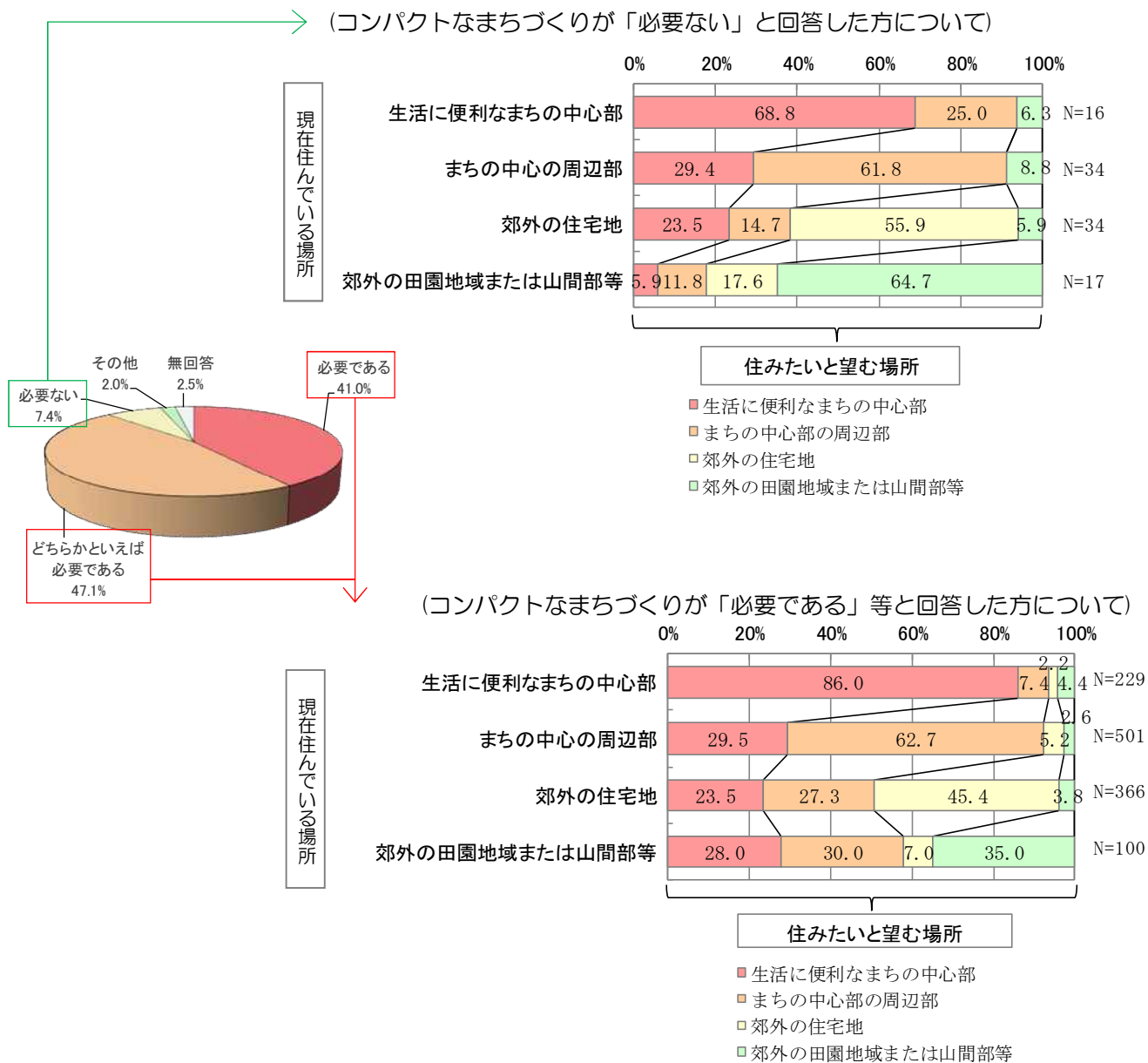


問4 あなたが住みたいと望む場所はどのようなところですか？

- いずれも現在住んでいる場所と同じ場所に住みたいと回答した方が最も多いことがわかります。
- まちの中心部や周辺部に住む方は約9割がまちの中心部や周辺部を希望している一方、郊外部でも約5割の人がまちの中心部や周辺部を希望していることがわかります。

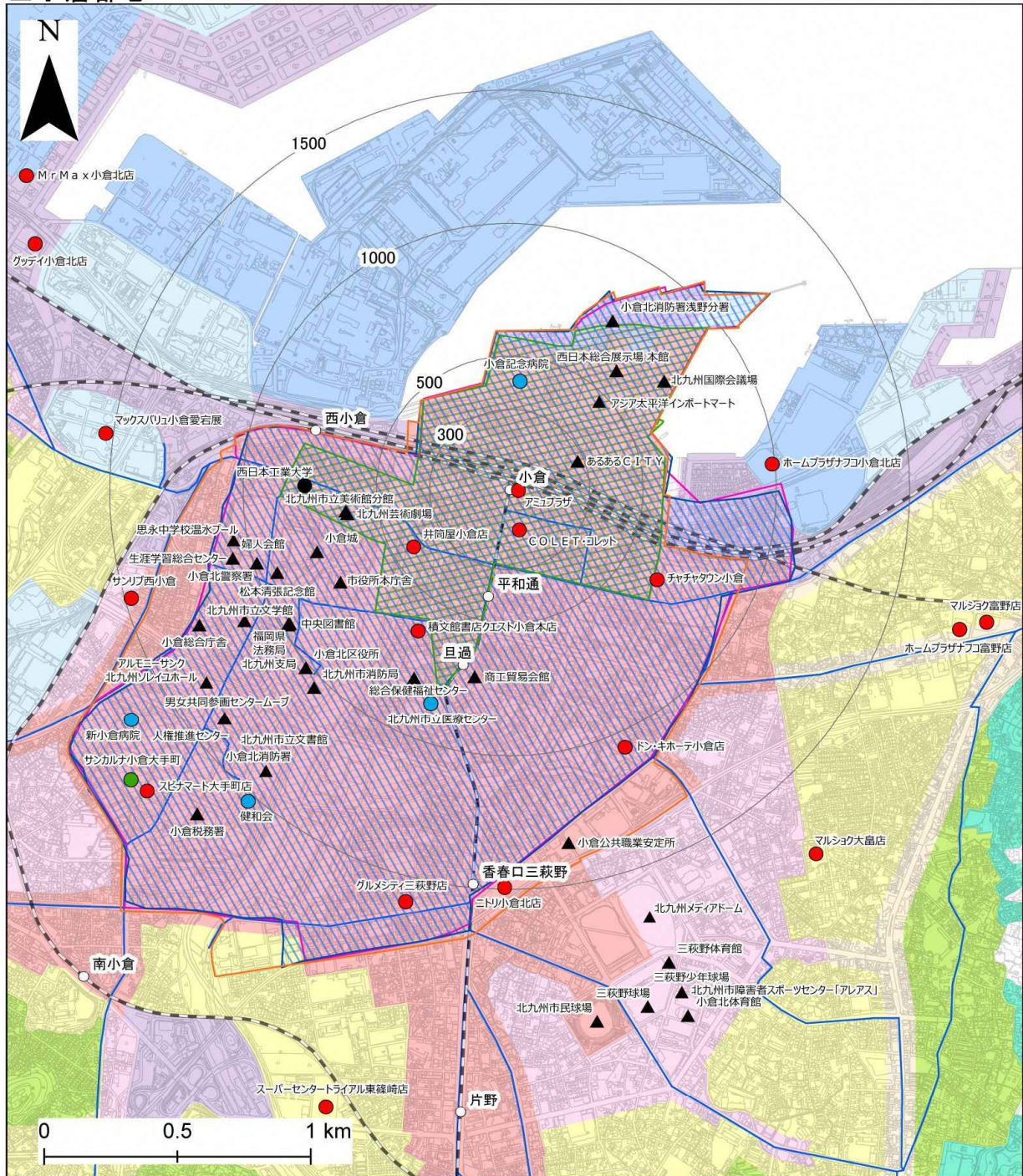


- コンパクトなまちづくりが「必要ない」と回答した方と、「必要ある」等と回答した方について比較すると、「必要ない」と回答した郊外に住んでいる方のほうが、「必要である」等と回答した郊外の方より、まちの中心部等に住みたいと望む割合が少ないのがわかります。



●各拠点における生活利便施設等の配置状況の把握（平成28年9月策定時）

■小倉都心



凡例		
	第一種低層住居専用地域	
	第二種低層住居専用地域	
	第一種中高層住居専用地域	
	第二種中高層住居専用地域	
	第一種住居地域	
	第二種住居地域	
	準住居地域	
	近隣商業地域	
	商業地域	
	準工業地域	
	工業地域	
	工業専用地域	